

きりかぶの可能性

林業において木材生産をする場合、木の根元部分は利用されません。幅が広くなっており、規格に合わないため使いづらいからです。今回はそのまま捨てられてしまう予定だったきりかぶを鬼石の朝市で設置させていただき、椅子や机として自由に使ってもらえるようにしました。小さい子供は興味津々で登ったり、皮を剥いたりして遊んだりしてくれました。



きりかぶイスが
できるまで



木を切ってトラックで
木材を搬出



適当な長さに
チェーンソーでカット



雰囲気ある贅沢な
コーヒー休憩



ケーキの台に
つかってくれたり



かわをむいて
遊んだり

きりかぶは 1 本の木の中で最も太い、立派なところ。

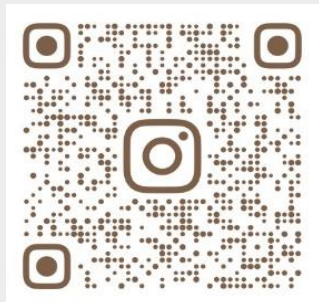
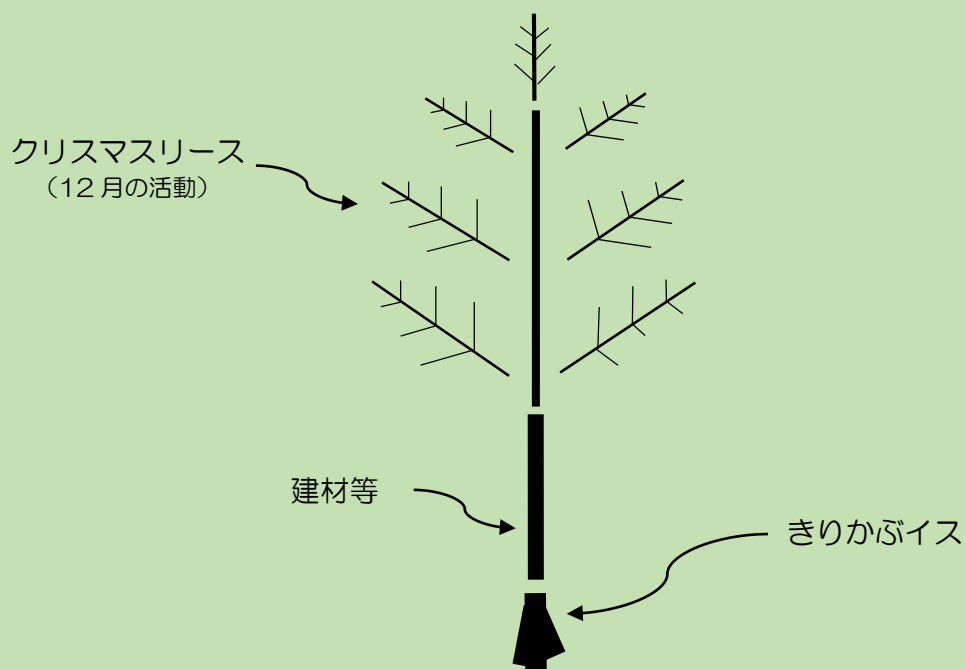
形がいびつで加工しづらいことからあまり**利用されません**。

切った木の **6 割以上**は捨てられています。

これまでの木材販売では 1 本の木からとられる製材品はたった 37%です。

この現状をもったいないと感じて始めた活動でしたが、

少しずつ使われなかった木の利用方法を考えることができます。



地域おこし協力隊の活動と日常、
イベント出店情報は SNS から！

長谷川 隆春

北海道出身。秋田県で公務員として林業に携わり、関心をもつ。令和 4 年 8 月に藤岡市に移住し、林業振興分野の地域おこし協力隊として現場を中心に林業、木材を勉強中。